

リガーマリンエンジニアリングがEVAデッキマットで世界中で人気を集めるSeaDekの認定加工業者に!!



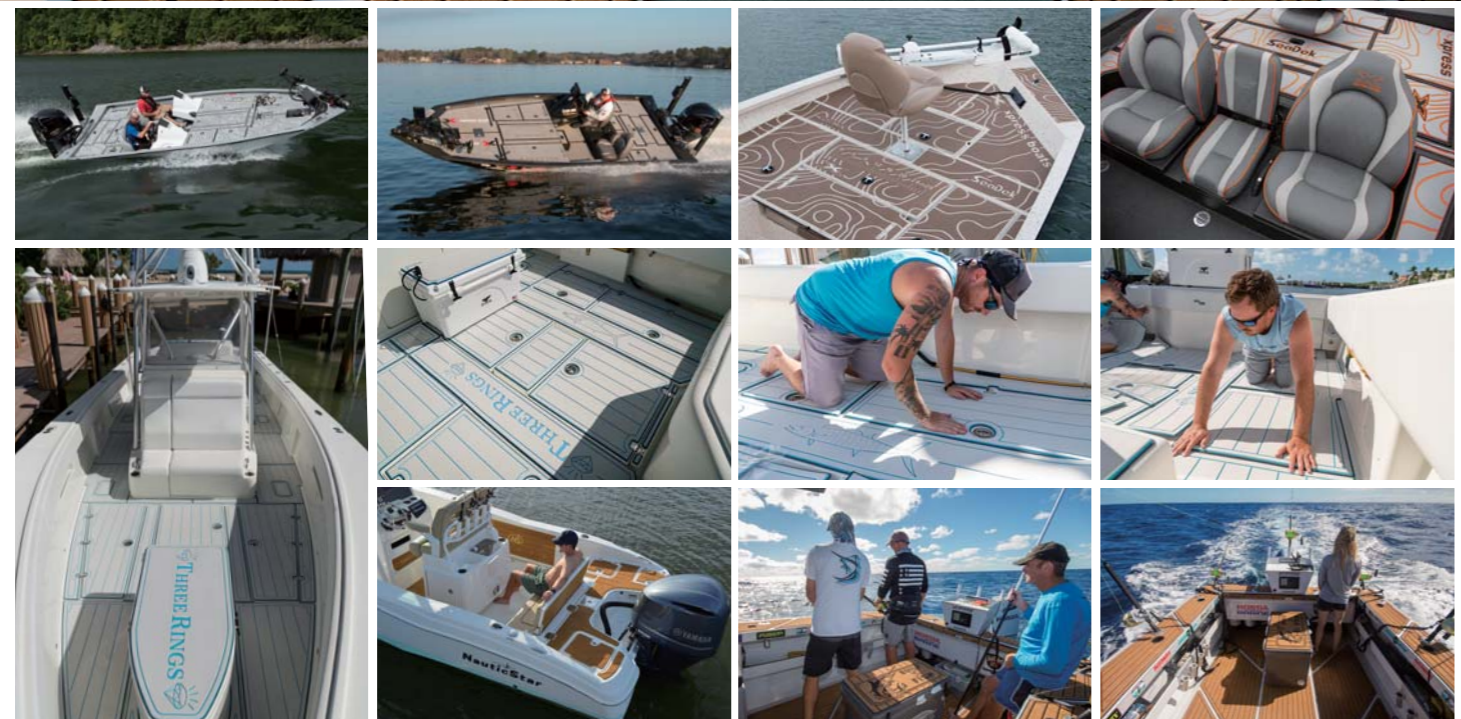
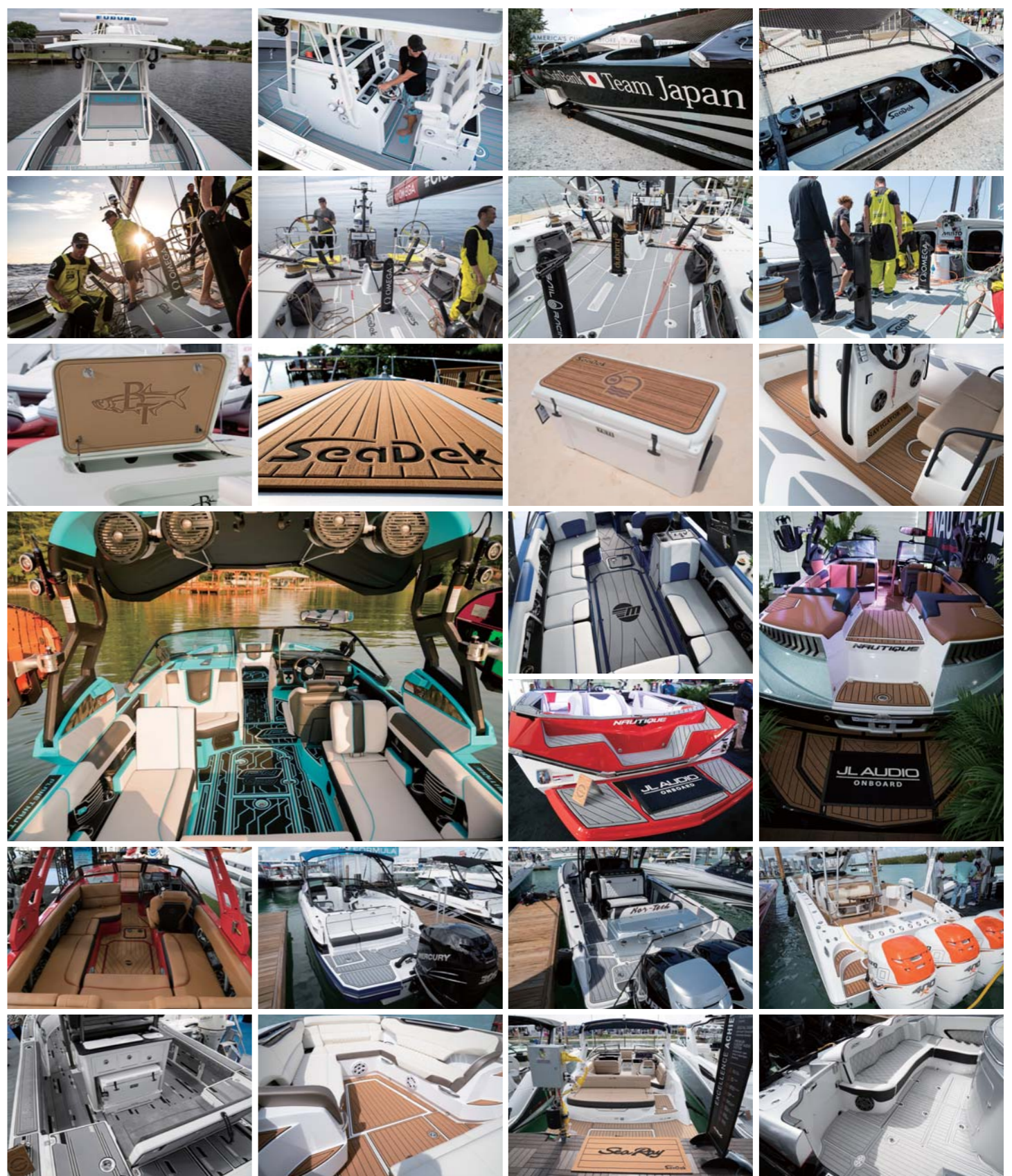
この研修を受け、リガーマリンは日本初の認定加工業者となり、今後は社内に加工設備を導入し、採寸、デザイン、作図、加工、施工までを一貫して行う予定だ。



日本のマリンシーンで幅広くマリン用品を展開するリガーマリンエンジニアリングが、この度、EVAデッキマットにおいて世界で最も有名なブランドSeaDek(シーデック)の認定加工業者になった。今回リガーマリンエンジニアリングではSeaDekの認定加工業者になるため、小林専務とCADの技術者鎌田氏がアメリカへ飛び、製品を製造販売するハイパーフォーム社で技術研修を受けた。SeaDekはEVAデッキマットにおいて世界で最も知名度のあるブランドとして、品質管理の専門研究部門を社内に持ち、同業他社のマテリアルとの比較をはじめ、自社製品の品質管理を徹底的に行っている。製品のクオリティに加え、こうした品質管理も高く評価され、SeaDekは世界中の著名なボートビルダーから、多くの製品を採用されている。世界各国に同様のメーカーは存在するが、この高い導入実績が現在SeaDekが世界中で評価されていることを証明している。アメリカでの研修期間は、朝から晩までしっかりと行われ、無事に全ての工程を終了すると正規取扱店としての認定書が手渡される。現在世界では28社の認定工場があり、リガーマリンエンジニアリングは研修を無事に終え、日本で最初の認定加工業者となった。認定加工業者とは採寸、デザイン、作図、加工あるいは施工までも行う業者で、SeaDekの定める基準を満たし、研修をパスした



取材協力:株式会社リガーマリンエンジニアリング 三重県いなべ市大安町南金井1732 TEL 0594-87-0200 URL <https://www.regar.co.jp>



企業のことを言う。これにより、日本国内でもSeaDekの加工が行えることになったのである。また、新艇への施工はもちろん、中古艇のレストアにも対応できるため、新艇・中古艇問わず大きなニーズがありそうだ。EVAマットの魅力は快適性とデザイン性で、SeaDekはNon-skid Pad、すなわち滑りにくい素材を採用することで、デッキでの転倒を予防することができる。またクッション性も高くFRPのデッキに立っているよりも身体にかかる負担は大きく低減される。このあたりはPVC製のデッキ材に比べても優位性が高い。次にデザイン性だが、SeaDek

の素材には様々なカラーが準備され、それが2層及び3層になる事でデザイン性が非常に高くなる。模様も自由に掘ることができ、ロゴ、船名、イラスト、メッセージなど、オーナーの思いのままにオーダーすることができる。あまりにも自由度が高すぎるので、施工例を見たい方はInstagramなどで#SeaDekと検索し、世界中で施行されたSeaDekから好みのものを探してみるのも良いだろう。今後の展開について、リガーマリンエンジニアリングの小林専務にお聞きすると、「ボートは嗜好品の最高峰で、海外のボートショーを見ていると、どのボートもカラ

現在シーデッキは世界中で様々なタイプのボートやヨットで採用されている。デザイン性も高く、オーナー好みのオリジナリティの高さも人気の要因となりそうだ。

フルで個性的なものが多いです。日本でもハルカラーを選択したり、一部ラッピングする船も出てきて、ボートで個性を表現されているオーナー様が近年増えていると感じていました。現在、弊社でもロッドホルダーのキャップ、スパンカーのセイル、ポツサムなど、カラーを選べる商品展開を進め、ありがたくもご支持を頂いております。そんな中で、当社は数年前からSeaDekの存在を知り、アプローチを行ってまいりました。そして、この度、良縁を頂きまして認定加工業者のライセンスを頂き、弊社内に加工設備を導入することで、日本でもSeaDekの企画から加工までを行えるようになりました。オーナー様の個性を表現できる製品として、SeaDekは最高のプロダクトです。その上、クッション

性もあり、デッキも滑りづらくなりますので、ボートの快適性も大幅に向上します。今後は施工できる艇種をどんどん増やす予定なので、日本各地のマリーナで個性的な船がたくさん増えることを願っております。チーク系のカラーやデザインが多くなると思います。個性的なデザイン、カラーのオーダーも積極的にお待ちしております!正式な製品のリリースは2020年3月に行われるジャパンインターナショナルボートショーで行わせて頂く予定です。」と今後に関する詳細な展望をお聞きすることができた。世界的人気アイテム「SeaDek」を製品ラインナップに加えたリガーマリンエンジニアリングは今後益々ボートオーナー達から高い支持を集めそうだ。